

2020年室蘭市 中島商店街のBCPを考える①

日時	令和2年10月8日(木) 18:30~19:30
場所	中島商店会コンソーシアム『ふれあいサロンほっとな〜る』
参加者	7名
講師	室蘭工業大学 シニアプロフェッサー 河内 邦夫 氏 元室蘭工業大学 教授 永松 俊雄 氏

■室蘭市の地質と地震について 【室蘭工業大学 シニアプロフェッサー 河内 邦夫 氏】

北海道では、想定地震・地震被害想定をしており、胆振で震度7を想定した時、室蘭の想定震度は震度5弱である。また、室蘭市の津波浸水予測図を見ると、中島地区で3~4mである。

地震は、地下で起きる岩盤の「ずれ」により発生する現象で、地震の起こる場所はプレート境界とプレートの中で発生する。ヨーロッパ大陸で地震が少ない理由は、平地であるため、プレート同士がぶつかることがなく、亀裂が入ったり、山がぶつかることもないからである。

室蘭に津波を発生させるのは、青森県の東方沖(三陸沖北部)地震。内陸の地震においては、想定される活断層が室蘭周辺には発見されていないため、室蘭での直下型地震は発生しない。

現在は、海底地震計・津波計による海底規則網が完備されており、リアルタイムで計測しており、このデータを基に気象庁から情報が発信される。

室蘭でどのような揺れが来るかは、震源の性質、どこを通過してきたか、住んでいる場所がどういふ場所かということによって決まる。1993年の釧路沖地震では、室蘭に至る地震波の減衰が非常に小さかった。釧路沖地震では伝搬経路の地盤影響が考えられ、注意が必要である。

中島地区は、昔の知利別川を埋立てているので、室蘭の中でも揺れやすい。

駒ヶ岳が噴火した場合は、室蘭に津波が発生する可能性がある。

■熊本地震と令和2年7月豪雨 【元室蘭工業大学 教授 永松 俊雄 氏】

熊本で4年前に震度7(M6.5、7.3)の地震が立て続けに2回あり、建物の被害は、全壊が8,400棟、半壊が3万3千棟、一部損壊が15万棟で、被害総額は3兆8千億円にのぼった。熊本で30年以内に起こる大地震の発生確率は、ほぼ0%だった。

発災から3日間は、「自助」と「共助」、中でも近所の人たちとの助け合いで、乗り切らなければならない。「公助」が本格的に機能し出すのは、早くても3日目以降になる。

発災直後の3日間、セブンイレブンだけ営業を続けた。これは、被災を免れた工場から各店舗に飲食料を供給することを、予め想定していたことから可能になったものである。

ショッピングセンターや商店街は数か月間営業できなくなった。発災前に防犯対策を含めて、商店街で協力し合う体制づくりを具体的に決めておくことが大切である。

令和2年7月豪雨では、球磨川が13カ所で氾濫し、特別養護老人ホーム「千寿園」では、入所者14人が亡くなられたが、浸水は建物の4階、最大9mに達した。北海道は豪雨に慣れていないため、対応できない可能性が高いことを知っておく必要がある。

大災害に遭っても、「取り返し」がつくよう、5年10年といった長期的視野に立って、日頃から資金の蓄えを心がけることが必要である。



【講義①：河内 邦夫 氏】



【講演②：永松 俊雄 氏】